

推薦の
ことば

「子ども」を通じて 近代日本の監獄のあり方を 問う研究

木原活信 (同志社大学教授)

「加害性」を有する存在としての子どもをどのように捉えるか、理解するかという問いに対して、社会福祉関係者のあいだですら必ずしもコンセンサスが得られていないという現実がある。同時に、このような子どもの多くが被虐待経験を有することが近年明らかにされている。

この被害性と加害性を同時に抱える子ども、あるいは肉親の犯罪ゆえに監獄に収容される乳幼児（携帯乳児）と呼ばれ、現在もまだその呼称とともに現実に存在する）に対して、どう理解し、処遇するのか——この現在ですらいまだ答えのない難題に果敢に挑戦し、その解決に挑んだのは明治期の監獄関係者たちであった。

本書は、その監獄のあり方を問い、少年犯罪者の処遇やいわゆる「不良」少年への感化教育、そして監獄に生まれ育つ子どもの問題について取り組んだ先駆者たちの言説と実践を監獄関係の雑誌・帝国議会議事録のほか多数の資料を駆使して、歴史的に明らかにしようとする意欲作である。

たんに歴史的な議論にとどまらず、犯罪や暴力に直接間接にかかわる子どもたちへの現代的な支援に関する議論を展開していくための一つの基点になる業績である。



A5判／上製／264ページ／
定価4,200円＋税
ISBN978-4-86617-022-0

2016年
12月新刊!

監獄のなかの

子どもたち

児童福祉史としての
特別幼年監、感化教育、そして「携帯乳児」

著 倉持史朗

現代の社会福祉あるいは司法は、非行や犯罪にかかわってしまった子どもたちに
どれほどに高い理念に基づいた、有効な実践を展開しているのか——
犯罪幼年・非行少年への処遇は、処罰として行うのか、教育をもって対するのか——
というきわめて今日的な問題に、一世紀以上まえに特別幼年監、感化教育によって
取り組んだ先駆者たちの挑戦に学ぶための意欲作！



六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-28 電話03-3293-8787 ファクシミリ03-3293-8788 <http://rikka-press.jp> e-mail: info@rikka-press.jp

<p>序章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 非行・問題行動を伴う児童への視点―被害経験―と「加害性」 2 明治期における監獄のなかの児童問題 3 本書の研究目的と方法 4 先行研究の整理と本研究の意義 	<p>第一章</p> <p>『大日本監獄協会雑誌』と監獄改良運動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大日本監獄協会の設立 2 『大日本監獄協会雑誌』の発刊と『監獄雑誌』合併をめぐる 3 『大日本監獄協会雑誌』のなかの監獄改良 おわりに 	<p>第二章</p> <p>『監獄雑誌』上における感化教育論</p> <p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 警察監獄学会と『監獄雑誌』の発刊 2 感化教育（事業）及び未成年犯罪者に関する言及 3 留岡幸助・山本徳尚・小河滋次郎の感化教育（事業）への言及 4 まとめにかえて―監獄改良のなかの感化教育論 	<p>第三章</p> <p>帝国議会における監獄費国庫支弁問題</p> <p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 監獄費地方税支弁の経緯と国庫支弁の論理―太政官布告四八号と第二議会 2 監獄費国庫支弁法案審議の行方―第三議会から第一〇議会まで 3 監獄費国庫支弁法案の成立―第二議会から第一四議会 おわりに 	<p>第四章</p> <p>感化法制定と犯罪予防の論理</p> <p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 犯罪児童をめぐる状況―感化教育以前、懲治監（場） 2 懲治場への批判 3 予防という概念―「病」への積極的対応 4 制度化の実現―感化法の制定と実施状況 5 まとめにかえて 	<p>第五章</p> <p>小河滋次郎の感化教育論―感化法制定後の感化教育論を中心として</p> <p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 監獄学者・監獄官僚として的小河滋次郎 2 二度目の欧米視察（一九〇〇年四月―二月） 3 「未成年者ニ対スル刑事制度ノ改良ニ就テ」―明治期の感化教育論の到達点 おわりに 	<p>第六章</p> <p>監獄に残る子どもたち―特別幼年監（懲治場）における「感化教育」</p> <p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 懲治制度と特別幼年監の設置 2 特別幼年監（懲治場）の実践―洲本・中村・横浜 3 特別幼年監における感化（懲治場）教育の終焉―実績と反動 4 まとめにかえて 	<p>第七章</p> <p>監獄に住まう乳幼児たち―近代日本における「携帯乳児」の実態</p> <p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 携帯乳児をめぐる法令とその変遷 2 携帯乳児の実態 3 携帯乳児の問題点 4 まとめにかえて 	<p>終章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 論点整理 2 本研究の成果
--	---	---	---	---	---	--	--	---



●著者紹介

倉持史朗（くらもち・ふみとき）

1975年 名古屋市に生まれる

2011年 同志社大学大学院文学研究科社会福祉学
専攻博士後期課程 単位取得満期退学

現在 天理大学人間学部社会福祉専攻 准教授
博士（社会福祉学）



神戸監獄洲本分監（特別幼年監）での実業教育



石川県監獄

注文カード

帖合・貴店名

（八木書店経由）

注文数

冊

発行 六花出版 著 倉持史朗

監獄のなかの子どもたち

児童福祉史としての特別幼年監、
感化教育、そして「携帯乳児」

定価 ● 本体四、二〇〇円＋税
ISBN 978-4-86617-022-0

お名前

お電話番号

注文 年 月 日

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。
お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話 03(3263)8787

Fax 03(3263)8788 電子メール info@rikka-press.jp